

佐賀県立大学(仮称)整備設計候補者の選定結果及び審査講評

1. 選定結果

佐賀県立大学(仮称)整備設計委託について、公募型プロポーザル方式により、次のとおり設計候補者として最も適した者及び次点者を選定しました。

最も適した者 梓設計・渋江建築設計 共同企業体
代表者 株式会社梓設計 九州支社
構成員 株式会社 渋江建築設計事務所

次点者 日建・石橋設計共同企業体
代表者 株式会社日建設計 九州オフィス
構成員 株式会社石橋建築事務所

2. 審査結果

提案者① 118.50点 / 140.0点
提案者② 118.00点 / 140.0点
提案者③ 72.25点 / 140.0点
提案者④ 90.50点 / 140.0点
提案者⑤ 100.00点 / 140.0点

3. 個別講評

<最も適した者:梓設計・渋江建築設計 共同企業体(提案者①)>

- ・ 佐賀の地域性を熟知して、周辺地域との関係に配慮した実現性の高い、優れた提案がなされている。
- ・ 県立大学の目指す「学生の主体的な学び」や「熱量の高い研究」を的確にとらえ、それを実現する「キューブ」や「コモンズ」等の設計コンセプトが明確に打ち出されている。
- ・ 前面道路からセットバックして配置する新築建物の南側のオープンスペースを魅力的に設えることにより、キャンパスに人をうまく呼び込むことができれば、様々な「連携・つながり」が生まれる空間になることが期待される。
- ・ コスト縮減だけでなく、将来、県立大学の施設が発展するうえで、民間活用の余白を残すことが期待できる独創的な提案がなされている。
- ・ 県立大学の目指す姿についての理解度が高く、提案者のコミュニケーション能力も高かった。

<次点者：日建・石橋設計共同企業体（提案者②）>

- ・ 多様な低層空間で構成された計画となっており、教員と学生の活気があるキャンパスになることがイメージできる提案がなされている。
- ・ アウターcommonsが周辺地域とのつながりを考慮して南側に開かれており、理念を実現する可能性の高い提案がなされているものの、用地の有効な活用に関する懸念が指摘された。
- ・ 県立大学の目指す姿についての理解度が高く、提案者のコミュニケーション能力も高かった。

<提案者③>

- ・ 構造や省エネ、長寿命化を踏まえた、セカンドプラットフォームやセンターストリート、落葉広葉樹の丘などの特徴的な提案がなされている。
- ・ 3階レベルのセカンドプラットフォームと1階レベルのセンターストリートの機能が連携して活用するイメージのしづらさが指摘された。
- ・ 佐賀の歴史性を強調した点を評価できるが、県立大学の目指す姿を提案に十分に反映しているとは言い難かった。

<提案者④>

- ・ 低層空間で構成され、工期短縮や構法の工夫を踏まえた提案がなされている。
- ・ 機能が混在しており魅力的ではあるが、県立大学の目指す姿をどう実現していくかについての説明が十分とは言い難かった。

<提案者⑤>

- ・ 周辺地域との連携について、クリークによる親水公園を地域の公園として憩いの場を提供する特徴的な提案がなされている。
- ・ 緑化等、SDGsに対する工夫があり、長期計画についても触れられていたが、敷地北側や既存棟に対する提案が十分とは言い難かった。

4. 総評

理文融合・企業連携・小中高との連携などの特長のある「佐賀県立大学（仮称）」の大学施設の設計者を選定するために、今回のプロポーザルを実施しました。

県立大学は、近年の大学のスタンダードであるコンパクトな施設として、学生の主体的な学びを重視する、カリキュラム内容や授業形態に合わせた弾力的な運用を可能とする、地域との接点を多く持つ、といった施設機能が必要であると考えています。このような大学施設を実現するため、多様化する学びへの対応や地域との連携、イニシャルコストやランニングコスト、環境負荷の低減といった観点で技術提案を求めました。設

計候補者の選定に当たり、評価基準を定め、業務実施体制、業務の実施方針、設計コンセプト及び特定テーマに対する提案について審査を行いました。

選定された梓設計・渋江建築設計 共同企業体は、佐賀の地域性を熟知して、周辺地域との関係に配慮した実現性の高い提案がなされており、県立大学が目指す「学生の主体的な学び」や「熱量の高い研究」を的確にとらえ、それを実現する「キューブ」や「 commons 」等の設計コンセプトが明確に打ち出されています。

また、前面道路からセットバックして配置する新築建物の南側のオープンスペースを魅力的に設えることにより、キャンパスに人をうまく呼び込むことができれば、様々な「連携・つながり」が生まれる空間になることが期待されます。さらに、コスト縮減だけでなく、将来、県立大学の施設が発展するうえで、民間活用の余白を残すことが期待できる独創的な提案がなされていた点を選定委員会として評価しました。

選定された設計候補者には、プロポーザルで評価された点を活かしながら、地域に愛され、ともに成長する県立大学の実現に貢献していただきたいと思います。

今回のプロポーザルで選外となられた各位には、技術提案書の作成に多大なる時間と労力を費やし、独創的なアイデアや自らのノウハウを反映した提案を行っていたことに対し、委員一同、心より感謝の意を表する次第です。

佐賀県立大学(仮称)整備設計候補者選定委員会

委員長 坂井 猛
委員 齋尾 直子
委員 三島 信雄
委員 安武 敦子
委員 山口 和範

(参考)設計候補者選定の流れ

- 令和6年10月22日 第1回選定委員会
参加資格要件、評価基準、技術提案を求める特定テーマ等について審議

- 令和6年10月31日 公告(公募開始)

- 令和6年11月22日 参加表明書の提出期限
[参加表明者] 5者

- 令和6年12月5日 技術提案書提出者の選定通知
[選定者] 5者

- 令和6年12月26日 技術提案書の提出期限
[技術提案書提出者] 5者

- 令和7年2月5日 第2回選定委員会 (一次審査)
技術提案書に関するヒアリング対象者の選定

- 令和7年2月6日 一次審査の結果通知
[選定者] 5者

- 令和7年2月23日 第3回選定委員会 (二次審査)
技術提案書提出者5者による公開ヒアリングを実施
最も適した者及び次点者を選定